

特集②★座談会

# リバイバル 神戸

昭和8年第一回のミナト祭のミス神戸



★昔なつかしスズラン燈恋し

——今日は、昔話あれこれということで大正から昭和初期にかけてのいろいろな話題、事件を追ってお話していただきたいと思っています。その頃永田さんはどの辺にいらしたんですか？

永田 今の大丸前のところですよ。

町並みはだいぶ変わりましたがあの当時いらした方で今でもいらっしゃるのが岩見屋さん、セリザワさん、宮崎さん、それと今、豊田販売店といっています。天川というミシン屋さんがありましたね。

小林 あすこに神社がありますね。永田 ええ、吉川英二さんの小説

にも出て来る河原兄弟のまつつてある河原神社がありますが、今はもう裏の方へ移転しましたわ、首塚というのがあります、そこに首をうめたという松がありますね。

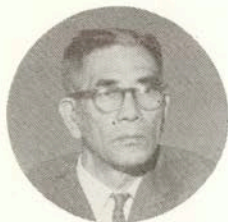
——西松さんはその頃は どうしていらしたんですか？

西松 昭和十一年頃ですかね、今の三越の南カドのところの神戸新聞社にいましたが、その頃、三星堂さんの二階が喫茶店でね、そこが我々のたまり場ですよとぐろを巻いていましたわ（笑）

十河 私も向こうへはよう、行きましたわ、ようはやりましたなあ。

西松 淀川長治さんなんかもようあの店で我々と一緒にいましたわ。あの店は何年頃までやっておられたんですか？

熊田 戦前までです。砂糖の統制がありましてそれでやめたんですわ。あの喫茶店が、よく流行った原因というよりは、買物に来られても、当時トイレがなかったと



西松 五郎

〈神戸新聞社々史編集事務局長〉



熊田 雄二

〈三星堂KK常務取締役〉



永田 みつゑ

〈永田良介商店〉



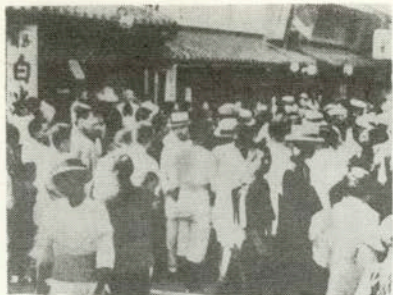
小林 延光

〈元町バザー社長〉



十河 巖

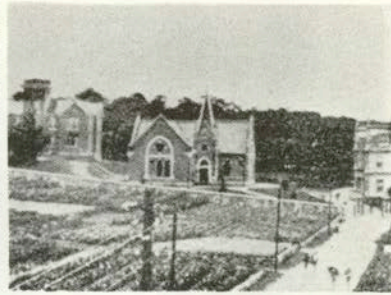
〈オリエンタルホテル顧問〉



大正七年米騒動直後



昭和6年頃の元町通



上筒井時代の関西学院

いうことと、のどがかわいても、他にああいう店がなかったということですね。

小林 三宮には、ブラジレイロがありましたねえ。

西松 ええ、これもほくら楽しみにしましたわ。

十河 ほくら、ブラジレイロの歌をつくりましてね、(笑) サンパウロかアマドネス……とかなんとかいってね。

西松 あのコーヒーは、しぶい落着きのある実においしいコーヒーだったですね。

小林 当時としてはブラジレイロの建て物もハイカラやったしね。永田 それ、ウチが普請したんです。(笑) 主人が欧州へ行ってね帰って来たら作ったんです。

西松 明かるかったですね。それに近くにダンスホールがあったでしょう、ソシヤルダンスホールが

(笑)

——熊田さんはその頃どうしていらったんですか

熊田 私はあそこで生れたんですが十二年頃でしたか高等学校に入ってからはいなかったんで私が知っているのは、その頃までですね。

小林 当時、ソーダを飲むというのが非常にハイカラな飲み方で、熊田さんそこでもたいがいソーダでしたねえ(笑)

十河 楠公さんの中にミズシンというのがありましてね、アイスクリームというのが出来たから食いに行こうかいってね、そこで初めてアイスクリームを食ったんですわ(笑) 明治四十一・二年の頃でしたかね。小学校の頃ですわ、

(笑)

西松 元町にもう一つ、喫茶店で

ウィンナというのがありましたね。たしか、音楽喫茶のはじめじゃなかったですかね。

十河 和菓子屋さんに喫茶店があったことがありましたねえ。

小林 ええ、トリキワ堂さんね、純日本風でカスリを着た娘さんがいてよう流行ったもんですよ。昔の元町で、もともと元町らしいというのは、喫茶店があったということでしょうね。

——小林さんはその頃は？

小林 私とは、家がやはり洋品関係の商売をして、親父についでよく神戸に出て来ましたが、だいたいの中学ぐらいからですね、神戸を知っているのわ。

それから、奉公に出されて六丁目のフナキヤに来たわけですよ。それから、一丁目、三丁目と三方所までくらしましたが、私が一番よつた時代といったら、スズラン燈が出来て、人がブラブラ歩いている頃ですね。

熊田 スズラン燈が出来たのは昭和の初期でしたかねえ。

西松 西条八十さんが作られた、

『港まつりの歌』と『神戸小唄』

に『雨の元町スズラン燈』というのが出てきますわ。その頃、スズラン燈の歌がありましてね、すごくきれいな歌で我々青年の頃よく歌ったものです。

★布引にキングコング現わる！

——十河さんはその頃ははどうしてらったんですか？

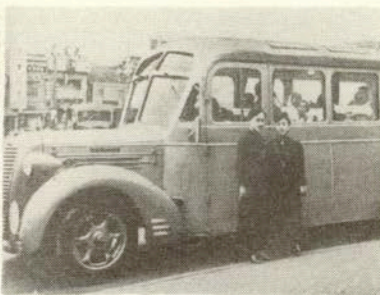
十河 ほくらは、学生時代から又新日報の記者をやってましてね。

それから朝日新聞社に入ったんですわ。神戸でキングコングが出たことがあったでしょう(爆笑)





昭和13年の大水害直後のそごう前



昭和11年頃の市観光バス



第1回みなと祭の国際大行進

その頃、ぼくは大阪本社にいたんですが、水害があつて手伝いに来た時に「しばらく手伝ってくれ、キングコングも出るさかい」って(笑)

西松 昭和十年前後でしたかね。

十河 キングコングがあつちに出たりこつちに出たり(笑)ところが誰も見たもんあらへんねん(爆笑)そいでしまいに、あれウソやいい出してね、そんなもん出えへんいうウワサが出よつてん(笑)そこでそれやつたら写真撮つて証明しよういうことになつて純金のメダルを懸賞にして写真を募集したんですよ。でもとうとう松の木から木へとびうつる写真を撮つたですわ。

——やつぱり本当に出たんですか  
十河 キングコングという名前はぼくがつけたんです。ほんものは大ザルですわ(爆笑)

そりゃあ当時、支那事変が初まつた頃で、戦死者がどんどん出るんですよ、町が暗いしね、ちょっとは面白いことも良いだろういうことで書いとつたんですけどね(笑)

西松 ぼくも、取材で走りまわつたんですが、市役所から伝わつてきましてね、公務員がいうから間違いないやろういうことでね、それで書いたんですが今から考えたら本当にバカらしい新聞ですよ(爆笑)サルの絵とか写真ばっかりでトップをかざつたんですわ

(爆笑)

十河 「どこどこで出ましたでえ——」いうてすぐ速報が来るんですよ。ぼくなんか、いつこも見んで書いとつてん(爆笑)

#### ★エエトコ、エエトコ聚楽館

——この辺で順に年代をおつていろいろとお話をうかがいたいと思います。まず大正元年に川崎造船のガントリークレーンが出来、市電布引線が開通、二年に聚楽館が出来ていますが。

十河 聚楽館では、水谷八重子のチルチル・ミチルやオーロラの歌の出できよる松井須磨子の「沈鐘」なんか見に行きましたよ(笑)

——出来た当時はご存じですか？  
十河 ええ、ハイカラなもんが出来たいうて大変だったですなあ。西村 あの頃はもう花道あつたんですか？

十河 なかったです。歌にあつたでしょう(笑)

西松 エエトコ、エエトコ聚楽館、ハナの無いとこ聚楽館、いうてね

小林 太陽座というのがありましたね。(笑)

永田 その当時は、たいがい太陽座ですね、相生座もありました

熊田 聚楽館が出来た前は皆、そこでやりましたからねえ。

永田 三宮には歌舞伎座というのがありましたけれども三流ですわ(笑)

小林 今の古い芸人は、みな新開地と三宮のかけもちでやっていたねえ。今ならタクシーとばしたらすぐですが、その頃みな歩きよつたから、女の人でもお白粉つけてあるているので、芸人さんやとすぐわかります。

#### ★星騒動おこる

——大正三年、第一次大戦がおこ

るわけですが……それから七年に米騒動がおこっています。

熊田 あの時、湊川公園で大会があった。二手にわかれ、一方は、兵神館焼き打ちをやり、もう一方が宇治川のところで井上の油店で油を取り、鈴木商店へぶちまけて放火したんですわ。消防隊が消失にかかったんですがホースを切られるんで神戸新聞社の屋上から消火にかかったんです。ところが水が民衆の頭にかかって怒ってね、神戸新聞焼き打ち事件になったわけです。

西松 現在、鈴木商店を焼いた者はわかっていますが、新聞社を焼いた犯人はあがってないんですわ。当時川崎造船の川崎吉太郎と神戸新聞社や鈴木商店との関係がどうのとウワサされたことが、今、熊田さんのいわれたことが一番よくいわれていることですね。

熊田 私らは、ヤジ馬で小寺襲撃についていったですわ(笑) 又新日報は無事だったですねえ。

西松 ええ……。ほかに書くことがありまして鈴木商店に火をつけた本人に会いましたがね、逃げて時効にかかってもう出て来とるんですが、自分で火をつけたいうですわ。主義上の人でなしに、群衆心理でやったんでしょね。やっただけいふんで……。

熊田 私の近くの平林という大きな米屋さんもやられそうになりましたがね。

小林 兵隊が出動して銃剣で大根差しに二、三人殺されたという話を聞きましたかね。

十河 それ、よく見とったですわ。こう、はすかいに上を向けて銃剣を持ってガッシャガッシャ歩

いていくわけですが、ところが逃げようと思っても前がつかえて逃げられなくてやられたわけですが、西松 記録には残ったんですが、本当にあったんですねえ。

十河 ええ、新聞地で見とったんですわ。

#### ★神戸名物南京虫！

——その後、病気がいろいろと流行してるんです。

西松 うん、ありましたなあ。流行性感冒とか天然痘とか。

十河 コレが流行しましたね。

新聞地の南のところで、スイカをぎょうさん売りよったけど、あんな買いうたらあぶないというてねえ(笑)

小林 南京虫でも、神戸が一番多かったからねえ。

熊田 私もよう悩まされました。

小林 私ら、子供の頃神戸に来て南京虫にかまれてよう泣いて帰りましたわ。都会の人は、あまりかまれへんねんど、私ら三日もおつたら足をはらして帰りよったですわ。それがあるといど神戸にいたら免役になる(笑)

西松 南京虫は神戸の名物でしたからねえ(笑)

十河 ほくは大阪の連隊でとられて入隊したんですが、南京虫が多かったですね。神戸から行ったから平気ですねん、免役になって。(笑) それだけ神戸は南京虫のひどいんで有名でしたわ(爆笑)

小林 穴のあいた木を置いていて朝になってコンコンたたいたら、ぎょうさん出て来ましたもんねえ(笑)

熊田 ちょっとした板の割れ目にもすぐ入るんですわ。

西松 それで穴のあいた棒を寝る前に周囲へおいとくんですわ(笑) もう、おらんようになりましたか。

熊田 こないだ散髪屋で足を南京虫にかまれた人がいましたね。聞くところによるといえるようです。

寄宿舎で新入者が皆やられるらしいですわ。戦災でほとんどいなくなったと思っただけですねえ。

永田 貿易品について入って来たんでしょね。中国人にいわれたら南京虫いうけど、南京の虫と違ういうて怒ってんねん(爆笑)

#### ★水練場をもうけたり

——その後、大震災があつたりでいろんなことがありました。

十河 三宮はどうでした。

熊田 あの頃は、元町を日に二回ぐらいい往復しよったですわ。夕方ちようど西を見ると夕日が落ちてた空を見ながら歩くつていうのが非常に楽しみだったですねえ。今、ああいうアーケードになると空が悲しいですわ(笑)

永田 本当に空が見えてよかったですねえ、それで、元町のコットウ屋さん一軒だけアーケードなすってないの(笑)

小林 空が見えるのが良いということとアーケードを作るのに最初皆反対してたんですが、いつのまにか出来てしまつたんですわ。

西松 その頃に三天堂さんのソーダマウンテンへ入るんですわ。

熊田 後に本庄の写真屋さんが喫茶店をはじめ、だんだん井菱さんとか藤屋さんとか、オアシスが出来たんですわ。

西松 その頃は六丁目、五丁目、あ





品格ある紳士服  
O-SHIBATA



柴田音吉洋服店

神戸・元町通 4 丁目 神戸 34-0693  
大阪・高麗橋 2 丁目 大阪 231-2106

神戸はお菓子の街  
神戸っ子も  
神戸を訪れる人々も  
みんなそういつてる  
風月堂の  
ゴーフルもその一つ  
オジイチャマも  
オバアチャマも  
パパもママもみんな  
子供の頃から  
ゴーフル党だ



神戸にそだって 70年



風月堂

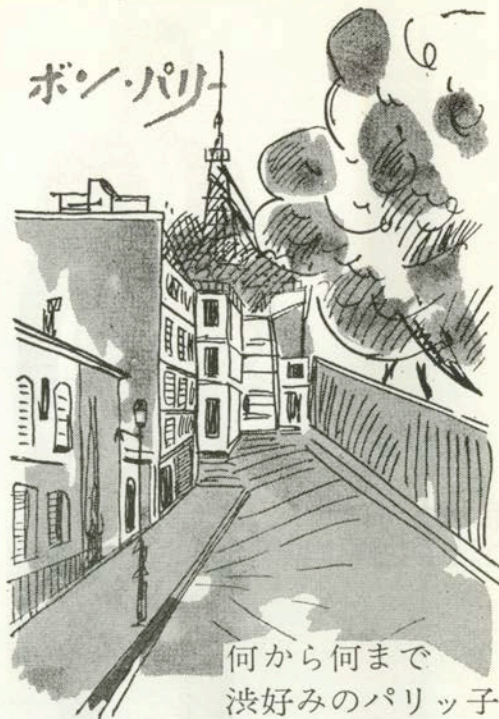
元町 3 丁目 TEL 392412-5



神戸マックグレガーショップ

サン **サカエ**

元町2丁目㊿7885



何から何まで  
渋好みのパリッ子

ボン・パリは洋菓子の  
本場フランスの味です  
ブドーと洋酒を上品に、  
ミックスした風味あるお  
菓子です



**アルモンド**

本店 神戸市生田区元町通2の43  
直売所 神戸大丸・新聞会館秀品店  
本店TEL㊿2203



たりが中心街だったんですね。  
十河 だんだん神戸の中心が東へ移ってきよるんは面白いですね。

ぼくが小学校の時は西出町で、それから湊町一丁目になり、元町の西のはしからだんだん移って来て今は東のはしに来たですね(笑)  
小林 当時は、歩くことを苦にせず用事がなくてもブラブラ流しよったからねえ。

十河 ぼくなんか四つぐらいの子供の頃、日露戦争の守備隊が入って来るいうて、相生橋まで旗をふりに行きましたわ。

小林 そうでしたねえ、汽車が通るいうて上からのぞいて煙で真黒になったことがありますわ。

西松 私も三宮神社の境内で生れたんですが、背負われて見に行ったこと憶えていますわ。

十河 あの当時、須磨の海岸がきれいでねえ、小学校の時、水泳によう通いましたねえ。

小林 その時分は、今みたいにレクリエーションで一般の人は行かなかったし、各学校でみな、立派な水練場を持っていましたねえ。

熊田 その頃はずっと浜でねえ、みな海水浴場がとれたんですね。

十河 今でも、水練場の歌を憶えていますよ。「水練場をもうけたりー」いうてねえ(笑)

### ★別びん車掌 バスにゆられて いたりきたり

昭和初期の特徴として交通機関の発達があげられますが

小林 バスと市電の色が非常にしやれていましたねえ、遠くからわざわざ見学に来たもんですよ。それと車掌さんに別びんさんが多かった(爆笑)

西松 市バスが始めて開通したとき、須磨まで何度も往復したことあるもん(爆笑)

小林 そうそう、狭い、カワラの落ちて来そうな道をねえ。あそこが一番距離が長かった。(爆笑)

十河 神戸の市電は、ロマンスカイのうのがあって前向いて坐るんですよ。走るフルツパーラーいうてすごく感じが良かった。

熊田 市電は昔から日本一だったんですね。

十河 その頃、観艦式があったでしょう。よその町から来たりして大変だったですねえ。

小林 双発の飛行機が何十台とあって、日本にもこんな大きな飛行機が飛ぶようになったのかと感激しましたわ。

十河 大正の初めに、須磨の海岸にスミスやカーチスが来たでしょう。シューツと飛んだ思ったら墜落しよってねえ(笑)

永田 私も学校から見に行きましたわ。飛行機が飛んで上へあがったら見えるのにナワ張ってお金を取ってねえ(笑)のんびりしてねえ、おかしかったですわ。

### ★みなとの祭はナナヨカ!

昭和八年に第一回みなとの祭が開催されていますが

西松 あの時は十一月でしたかねえ、歌にもありますよ、みなとの祭はナナヨカ(七・八日)いうてね(笑)

西松 第一回は「ミス神戸」といわず「みなとの女王」といってたんですね。生島さんという人でしたが、まるぼちゃのきれいな人でしたわ(笑)あの頃は馬車に乗ったんですねえ。

ひんく・  
こおなあ



「必然性さえあれど、いくらでもハダカになるわよ」といつていた若い女優さんがありました。「必然性」というのはなんでした。それを研究する前に、若い女優さんがハダカになるときの覚悟のほどを聞いてみましょう。ある人は「体当たりする気で脱ぐわよ」といいました。ある女優さんは監督さんから「演技の、脱皮」になるから」とおだてられて脱ぎました。「体当たり」や「脱皮」という妙な口実で脱ぐより、必然性があれば、というのはいかなかなかよい。

さて、必然性ですが、ハダカになる必然性で第一に考えられるのはまず「入浴」です。これは遠くギリシヤの昔から大いに活用されています。全裸のビナナス像をつくるときでも、入浴のポーズをとらせ、そばに衣裳がおいであります。入浴するときはハダカになるのはあたりまえですから、だれがこの配慮を怠ったばかりに、世論の猛烈な非難をあびた例もあります。マネの「草上の食事」という絵がそれです。女性だけが、しかも屋外で、ハダカで食事をしてゐるというのですから、これには必然性が認められません。さて、つぎはベッド・シーン。マリリン・モンローがシャネル5番を寝巻にしてから、ベッドにも必然性ができました。

(T)

十河 竹中郁君でもグループ作ってね。タンブリン持って踊ってましたよ。今は、どこでもやってるような踊りでねえ。

西松 そりゃあ、あの頃は本当に祭らしいものがありましたねえ。

十一月で寒かったですが夜になっても群衆が東遊園地から元町の方まで連って踊ってねえ。

永田 あの頃はたいいてい店も休んでねえ、ちょんまげついたりして個人個人で楽しんでましたねえ。

小林 休まんとウインドーがこわされる(笑)

永田 それだけ激しかったんです。

西松 家でも軒並みにちようちんをぶらさげてね。

小林 今から考えたら単純でしたねえ、商店街なんか夜通しやってましたよ。

山車なんかはどうでした。

西松 各町内で出してそれが東西から集ってくるんですわ。

十河 中央は元町通りでしたな。熊田 元町を通して、市役所へ寄って新開地へ出ましたなあ。

十河 第一回、二回は面白かったですね。今のミナト祭も考え直してもっと改造してほしいですね。

★荒木大将・お礼に  
かめのこタワシ

最後に昭和十三年の災害はどうでした？

十河 あの時、ぼくは上筒井の家から、大阪の本社に通ってたんですが、阪急が不通で大阪へ行かれへんのですわ。いったん駅まで出かけたんですが、その間だけでも、流されて来たオバアさんや、材木で頭を割られてる人なんかずいぶ

ん助けましたが、何せひどかったですね。電話で本社と連絡とったんですが知つとらへんねん。それでさつそく原稿送れいわれて送りましたが戦争のことで、あんまり大きくあつかわなかったんですね。で午後から支局へ行ったらお前歩いて大阪まで来いいわれましてねえ(笑)仕方ないですよ。

歩いて行きましたわ(笑)川を渡るのにロープが張ってありましてそれを伝って渡りましたが命がけですわ。ところが一つ川を渡ったらまた次の川を渡らないかんのですわ。一つづつサルみたいロープを伝っていくんですよ(笑)

結局午後三時に出て大阪に着いたのは夜なかの十二時半ですわ。すぐ記事を書きとばして紙面をうめたんですが、朝六時頃ウトウトしてる時にたき起されて、大阪市が救援隊送るから案内してくれいわれてねえ(笑)大阪港から物資を満載して神戸へ急ぎましたわ。

それから、二・三日して荒木大将が来まして、いろいろ案内してまわったんですが、両親、兄弟をなくした六つ位の男の子が一人取り残されて親・兄弟の死体引取人になつとるんですわ……。荒木大将それを見て泣きよつたですわ。軍人でもなかなか人情のある人でしたね。そんなことであちこち案内してまわりましたがぼくが風邪をひいてしまつてね。そして荒木大将が東京へ帰つてしまつてくして「風邪は万病のもとだから気を付けなやかんよ」いうてカメノコタワシを二つ送ってきたですわ(笑)背中ようこつて風邪ひかんようにせえいうこつちゃ(爆笑)

〈於・オリエンタルホテル〉

びんく・こおなあ



その道の通でいらつしやる殿方四人がある週刊誌で人気女優五十人の品定めをなさつておられました。演技、ムード、スタイル、声、服装、容貌の六つが基準になっておりましたが、お色気鑑定というからには、からだの部分に焦点が当てられるのは当然です。

そこで、どんな部分が一番多く出てくるか。しさいに熟読玩味しましたところ、意外にバストの魅力については発言はなく、出てくるのはヒップのお話ばかり。たとえば「とくにおしりが下がりますぎているから六十五点」「脚とヒップの色気は満満」「ヒップのまわりに中年太りの感がある」「脚は太いがヒップの格好はいい」「ヒップはダブダブ」これは有馬稲子、小川真由美、淡路恵子、富士真奈美、池内淳子のことをいったものですが、どのヒップが誰のものか当てあそばせ。

フランスの大画家ドガのところへ、従妹をモデルに使つてくれと頼んできた男がありました。ドガは多くを聞かずに「従妹さんのおしりはナシ型か、リンゴ型かね。リンゴ型なら見たくもないね。ナシ型なら連れてきなさい」ナシ型というからにはソパカスでもあるんでしょうか。おしりは、第二の顔」とはよくいったものです。和洋を問わず、殿方はおしりがお好きというお粗末。(T)



杉の

サービスランチ

落着いた雰囲気  
素朴な立杭焼  
コクのある洋食



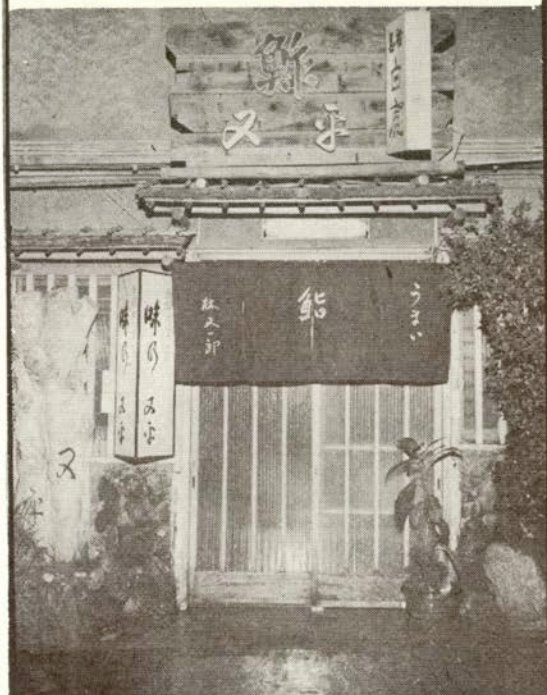
150円

グリル喫茶



元町通3丁目  
本高砂屋2階  
TEL 337368

神戸っ子の味覚に  
ぴったり、又平の早馴れ鮓



神戸三宮生田ノ杜ノ西

鮓の又平

電話・三の宮 33 0935







昭和11年3月頃まで阪神電車の  
終点であった海邊



トア・ホテル

日賀  
運送船具

2階果物  
神田馬車

倉庫

大沢会

坪内サハク  
ミナトシヤ  
ブルエレイロ  
田中  
室内装飾

鯉川筋

大井肉屋  
土井書店  
梅田たむ  
安田貯蓄  
大池靴屋  
穴門筋

更紗閣  
宮崎キヨ子  
ビーハイブ  
本森倉庫  
川瀬書店

トミー  
オカサ絹子  
赤井筒薬局  
セリバー  
太田ベコウ

空地  
太陽洋服店

川井糸店  
クサベ呉服  
ヒカイ貴金屋  
山村洋服店  
明治屋食品  
カタヤマ洋品  
トモヤ堂菓子

日光セトモノ  
松井エハキ  
キリンヤ洋品  
千代田貴金屋  
神戸屋洋服店  
福音社  
ミヤコ洋装店  
日本楽器  
神戸屋洋品  
越石ギンギョウ  
朝日屋玩具  
元日屋雜貨

2 丁目

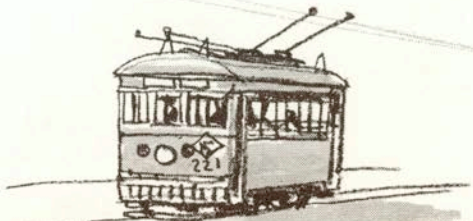
1 丁目

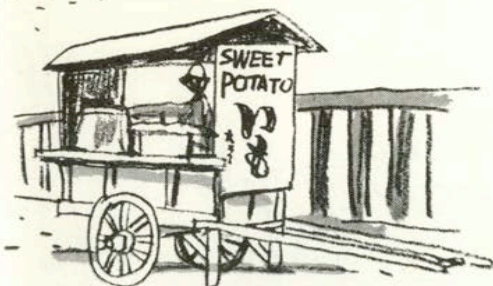
元町通

中村ネル  
鍋屋金物  
松本シルク  
島田運動具店  
日光セトモノ  
大岩カバン  
三ッ輪  
児玉印刷  
フルッホール  
サイキ食品  
島田洋服店  
森田洋服店  
三十七屋文具  
エリ吉小間もの  
松永額縁  
石本シルク  
大書とド  
千代田帽子  
竜佑園お茶  
イクミ帽子  
カワムラ洋装店  
植田靴  
梅谷食品  
山村洋服店  
山本砂糖  
大和商会キヨ子  
野村商会  
沢谷文具店  
面川帽子  
改田ユモ服  
木村履もの  
山本セトモノ  
みよし洋品  
マキタ毛皮  
南部貴金屋  
タカラ屋宝内装飾  
小川金もの  
片野田洋服  
林カサ屋  
市田宝銀



鯉川筋(利ヶ止場一穴門間)





昭和10年2月号の「神戸」より、



その頃の少年



すずらん灯がまた広がり、  
大正7年頃の元町通(丁目)  
自動車もみえます

三茶洋行所  
柴田洋服  
松井洋服  
エリト婦人服  
永文具  
木村呉服  
大里屋モリ  
伊太久印刷  
浪花堂漆器  
歌知屋菓子  
神戸カス飲  
鶴田屋小間物  
尾城屋帽子  
吉川商店  
住川齒科  
富田屋カネ  
藤原医院  
日尾洋服

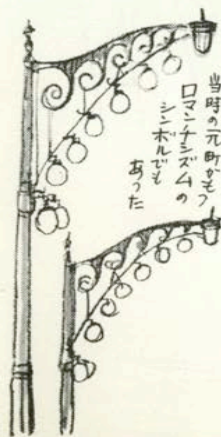
辰巳堂  
阿島バコ  
高橋カバン  
フミヤ洋傘  
鶴屋洋服  
山口銀行  
本庄宝興機  
柴田洋服  
マースヤ  
牧浦コトウ  
エスベロ喫茶  
生田理髪店  
小林コトウ  
養老堂菓子  
大野電気  
トミヤ菓子  
文華堂  
今城エカキ屋  
貝永  
三木薬房  
三宮盛神堂  
マルサク  
柴崎洋傘  
勝者ゴウ  
中村屋パン  
佐野コトウ  
永文具  
三原カバン  
放香堂

4 丁 目

フドモ屋洋服  
三木玩具  
三学堂食料品  
元善小間物  
和泉屋せんべい  
瀬田唐木細工  
田村たけ  
まるまる屋物  
やわん玩具  
片山モモ服  
フミヤ婦人服  
今井商店  
片山洋服  
大丸食堂  
未壁安具機  
京綱屋靴  
北浜電気器具  
三木セモノ  
古宮衣装店  
バスケヤ森田商店  
門坂屋洋傘  
佐野洋食器  
三木本眞珠

3 丁 目

ミヤハラ  
アーマー  
美田時計  
高砂屋  
奈良山洋服  
月堂  
美濃屋  
磯野氏茶店  
マイルル商会  
大和シヤ  
トラヤ帽子  
武村  
時村人形店  
渡辺カバン  
三好野  
海文堂  
ヒミマ下駄屋  
美津環運動具  
美津屋洋菓子  
鴻池銀行  
浜田トイ  
三原酒屋  
中村漆器店  
和泉タビ具  
和泉タビ具  
頼戸印  
柴崎トイ  
ヤタナカ  
福助小間物  
沢内モスリン  
沢田米屋  
ほてい染局



すずらん灯は  
当時の元町を  
ロマンチックな  
シネマでも  
あった



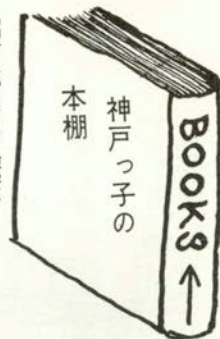
ハカマをはいて  
大きなショールを  
きつてイカサ  
女性風俗  
でした



昭和11年頃の市観光バス







「神戸というまち」 陳舜臣

本書は、東の横浜と並ぶミナト町神戸の秘密と魅力を探って、あますところなく神戸のすがたの特長をえがいている。

異人館の立ち並び青い眼の子供たちが遊びたわむれる北野町界隈。昭和13年の大水害、戦争の空襲とたびかさなる災害にも、神戸のもつ合理的な気風、伝統にとられない進取の精神は失われず、見事に立直り、さらに未来都市への構想にむかって歩みゆく神戸。神戸っ子である著者の軽妙な筆は、思わず知らず読むのを神戸のもつ魅力の中にひきこまねずにはいられない。神戸の街を愛する人にぜひともおすすめする格好の書物。  
(至誠堂新書二二四ページ。二五〇円)



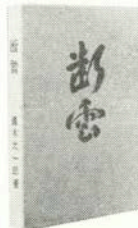
「世界原色百科辞典」 小学館編

百科辞典は、種々出版されているが、10月に出る小学館の世界原色百科辞典は、従来の百科辞典の図版が白黒だけで、引いて見た時、感じが実物と違ってもどかしく思ったのか、オールカラーで、バラバラ見ていると楽しい。図語辞典としても、図鑑、美術書、地図の役割も果たす、本のスペシャリストにしてゼネラリストと言えよう。(全8巻予約特価各巻一、六〇〇円 一時払い一一、五〇〇円) (一、三〇〇円の割引)

随筆集「断雲」 直木太一郎

神港倉庫KK社長であり、随筆家でもある直木太一郎氏が神戸船舶倶楽部文化館発行の季刊「海運文芸」に毎号載せていた随想を中

心にまとめられたもの。好き放題のことを書いていっているので「断雲」としたと著者自ら冒頭に述べているが、神戸経済界の指導者という立場にあつて経済界の繁栄に力を費す著者の、ある時は優しく、ある時はきびしい滋味あふれる話題が生々とした文体でえがかれている  
(神戸新聞社出版部・五〇〇円)



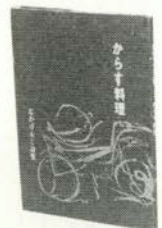
「川柳郷土史散歩」 綿谷雪藏

これは数多い古川柳の中からとくにわが郷土に関するものを集めたもので、時代は大体徳川時代末期まで。兵庫県各地の古人ゆかりの地に残るこつけい、洒落な川柳・狂句を集めたもの。

「行平のひとりぬれる雨と風」

「よい晝へかかる明石のうかれ船」

秋の夜長に読み流すのに手頃な本。カバー装画は寺尾雄雄氏の「じきく文庫百九八ページ、会費年間一、二〇〇円」



「からす料理」 なか・けんじ 詩集は読む

詩集である。歌を期待して読むと失望するだろうが、そんな残念は払って置いて、週刊誌のつもりで読むと、歌が聞えてくる。あなただけの心の中にあつて、言葉にならないもの、理路整然と言つて見れば、何とも感じない日常的なことが、歌になつて聞えてくる。  
(輪の会発行 四四〇円)

「ある青春の自叙伝」 山本博繁

これは女の人の好む恋純愛ものではない。ある男が半生を周囲の人々と共に迷い、考えながら過して来た記録である。生きる勇気を与える本でなくて、生きる勇気を考えさせる本である。  
(三三書房発行 一三三〇円)

# ★神戸の書店から

本のデパート

日東館 NITTOKAN

大丸前 (39) 2491-3

★ベストセラー(日東館九月末調べ)

- コストダウン 光文社 占部都美 二二〇円
- 私の幼児教育論 岩波書店 一五〇円
- 楊貴妃伝 中央公論社 井上靖 五八〇円
- 少年朝日年鑑 朝日新聞社 五〇〇円
- 世界の企業 毎日新聞社 四六〇円
- 輪の葉のそよぐ町 新潮社 四二〇円
- グレース・メタリクス 浪花千栄子 五八〇円
- ゼロの寅月 光文社 高木彬光 三〇〇円
- 健康ご意見番 朝日新聞社 大渡順二 四二〇円
- 聖少女 新潮社 倉橋由美子 四二〇円

★書店のマノモス化

ガーディナーという男、英国人だが、こんなことを言っている。「自動車を買うためなら何十万でも、例え何百万でも、高いとも思わずに、金を出す。しかし、現代や前代の智慧を講うのに、一万円という、顔色を変える人が多い。これは英国の中流家庭のことを言ったもののだが、日本では質はともかく、量の点では、世界有数の読書人口をかかえている。経済成長と教育投資の相関が言われている時に、日本にとって真に喜ぶべきことと言つてよい。また経済成長が個人の地位や、生活の向上に結びつくために、人はスペシャリスト、専門家であると同時にゼネラリスト、全般的な知識も要求される。自動車会社などがセルスエッジニアを採用し、主婦も家政の専門家であるだけでは不足で、上昇する生活水準を保つためには、電気や機械に弱くは動まらなくなつて来ている。

このよう知識の分化と拡大に迫いつつためには、その供給者である書店は中途半端な売場面積では、要求に応えることができない。世界の書店が巨大化し、集中化するの自然の勢である。この時に三宮の日東館が11月1日を期して売場面積を倍加して、一躍マンモス書店となるのは時期を得ている。声援して頂きたい。



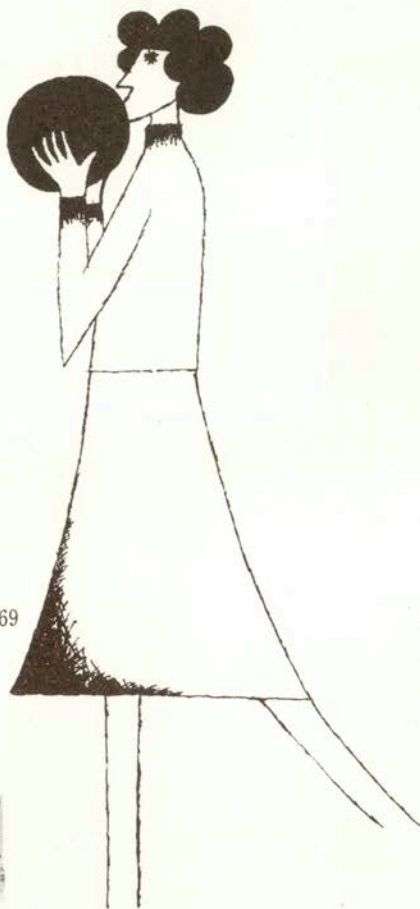


## \* 正しいボールの投げ方

1. スタートに直立の姿勢をとり、ボールを両手で胸の前にもち、ねらいを定めます。
2. 右足を踏み出し、それと同時にボールを前方に出します。ボールをあまり高く上げないよう注意します。
3. 左足を出すと同時にボールを自然におろし、左足が着くときにはボールはからだの横にきて、スイングに入ります。
4. 右足を出してボールは後方にふられます。右腕は十分伸ばして振子の運動となります。
5. 左足を出しヒザを少しまげ、ボールをだんだん低く下げ、左足は多少スリップしながらファール・ラインの前でとまります。もっともボールは下にきてから離れます。
6. ボールを離れた右手はまっすぐふり上げられ、左足はアプローチから離れず、右足でバランスをとります。

### ジョウベスターレーン

神戸市生田区江戸町95(花時計西側) TEL・39-4169



レストラン  
コラル キタノ

TEL. 23-2251



S.I.



## しゃれたムードのグリル

\*毎日メニューの替る  
ビジネスランチ

A ¥200  
B ¥300  
C ¥500



GRILL  
COFFEE

スリースリー

TEL 331070-1







# ★神戸を楽しむ私のコース⑭

## 神戸の釣り場

塚本 勤

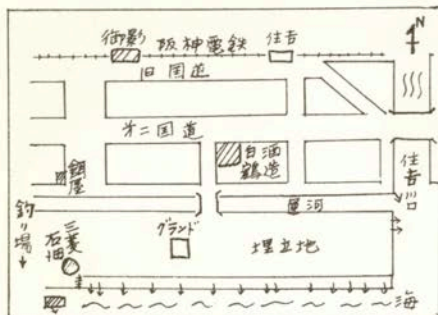
神戸製鋼所中央研究所分析課  
くろがね倶楽部釣部

最近の釣ブームで釣人口が増し、しかも漁師の乱獲によって魚類がめっきりと少なくなった。私のもっともよく行く釣り場を二カ所ほどご紹介したい。まず東神戸では青木、深江（阪神電鉄の各駅より五分）の浜の各波止から竿釣または投釣で、テンコチ、ハゼなどが半日で二〇から三〇は釣れる。西側によると住吉川尻の湾内での投でハゼが二〇ほど釣れる。いずれも形は一三cmから二〇cm位で投げる距離は二、三〇mが手頃である。この川尻の両側埋立地の南側一帯の岸壁では（ただし魚崎側の岸壁は工事中なので早朝または夕方しか入れない）リール付きの短竿（一・一・五m）でのきわ



写真は台風前後の住吉御影下の岸壁

下は住吉岸壁の釣り場地図



釣りで、手のひら級のシマダイを半日で三〇ほど釣れる。餌は、あけみ貝（一名クジャク貝）またはゴカイがよい。この岸壁では一時、サビキ釣りでハマチまじりでサバ、コアジなどが三時間で二〇から三〇もあがり釣り人達を大いに楽しませたが、現在ではコアジ、イワシの短ザク切りの餌で三〇〇gから四〇〇gのサバが釣れるが数には期待できない。仕掛けはハリス二号、針は袖七号を二〇cm間隔に三個ほどつける。竿は三間あれば十分である。夜釣りではマムシ餌でときたまチヌがあがる程度で期待はできない。川尻西側の岸壁は長さが約五〇〇mあり、場所としては三菱石油側か東側がよい

ようだ。餌屋は阪神御影駅西側の南北道路を浜に下ると西側に清水餌店があり、いつでも餌を置いている。この川尻一帯で釣りを楽しむ場合は、三間の竿、リール付短竿、および投竿（スピニングリール付）を用意すると、あぶれることはまずない。

つぎに西神戸では垂水をお勧めする。省線垂水駅より五分の福田川尻の両側の場所だが、ここで釣るときには必ず投竿が二本いる。消防署裏と一文字波止付近では一kg級のスズキ、チヌが釣れるからだ。私も二つほどスズキをこの夏に釣りあげた。この浜一帯は、わりに岩礁が多く他の釣り場と比較して魚も多いが釣り人も多いので平日でないと釣り場は獲得しにくい。仕掛けは、一本の竿には針はキツネ三、四号ハリス一または二号を五〇cmで枝針をつけ、三〇、八〇mを探ると、ベラ、キス、ハゼ、アブラメ、ハゲ、テンコチなどが釣れる。他の竿はハリス二号七〇cmに針は袖七号または伊勢尻七号を一個つけ、餌はマムシまたは石ゴカイの一匹をさす。魚がかればゆるめずに一気にあげる。私の場合はキツネ七号に石ゴカイを用いた。この一文字付近はチヌが多いが、根がかりするのでオモリの子備は最低六個必要である。投げる距離は四〇から五〇mである。仕掛けは人によって多少異なり、また釣る魚によってもかなり異なるので私の紹介したものが最良ではない。餌屋は、駅の山側の二軒、浜側の三軒の釣道具店にある。垂水は子供連れでも危険は少ないので家族揃って一日を楽しむ釣り場である。

# 神戸遊戯誌

26



コヨリティ稜線をゆく関西学院大学山岳会ペルーアンデス探検隊

〈写真提供 関学山岳部〉

登山 ③

青木重雄

登山が時代と共に進展して、単なる山歩きや宮詣り程度のものから、高山登山技術を身につけることによつて、スポーツ的要素が濃くなってきたことは前回で述べたとおりだが、戦後から現代にかけてはその傾向は決定的となり、日本山岳会や各大学などの主だった山岳会はいずれも世界のトップ・クラスの高峰に挑戦することを第一目的とするようになってきた。

明治三十八年に創立以来、昭和十六年に社団法人として認可されて今日にいたっている日本山岳会自体および同会の関係した数多くの海外遠征登山を見ても、ほとんどが世界的高山である。だが、日本山岳会が戦後果たした大事業はなんといってもネパール・ヒマラヤの中央部にあるマナスル（主峰・八一二五メートル）遠征と登頂の快挙だろう。マナスルへは一九五二年（昭和二十七年）の踏査、一九五三、四両年度の遠征を経て、ついに一九

五六年（昭三十一）五月の九、十一の両日に第一および第二登山隊共に初登頂に成功して、全員無事帰国したが、五三年の第一次遠征メンバーの一人に甲南高校OBの田口二郎がいた。田口は先に書いた芦屋のR・C・C（ロック・クライミング・クラブ）花やかなりし頃の学生会員だった。次に、日本山岳会の関係した他の遠征登山には、大正十四年横有恒らによるカナディアン・ロッキーズのアルバータ初登頂、昭和十一年立大山岳部堀田弥一らによるガルワル・ヒマラヤのナンダコート初登頂、同二十八年早大山岳部による南米アコンカグア主峰および南峰登頂、同年京大学士山岳会今西寿雄らによるアンナプルナ第二峰、第四峰試登があった。その後関西の大学関係だけを拾ってみても、昭和三十年の京大のカラコラム・ヒンズークシ学術探険、翌年同大学とパンジャブ大学合同の西カラコラム・東ヒンズークシ探険、三十二年



両大学によるスワート・ヒマラヤ学生合同探険、三十三  
年神大、チリ隊合同による南米バタゴニア探険・アレ  
ナレス初登頂（この探険には、後年タヒチ島で行方不明  
となった故高木正孝教授も参加していた）、京大学士山  
岳会によるカラコラムのチヨゴリザ初登頂などが記録さ  
れた。このほかにも今日までに日本山岳会および関西各  
大学等による海外遠征がいくつか試みられたが、近いと  
ころでは、昨年（昭和三十九年）、関学山岳会はカナダ  
ローガン峰およびベルーアデス探険に昭和三十四、三  
十六年に出かけて成果を取めた。また、同会のOBで愛  
知大学生遭難事件取材で有名になった現在朝日新聞カメ  
ラマンとして活躍している藤木高嶺（藤木九三の令息で  
西宮市に在住）は、貴重な未開地探険記録である「カナ  
ダ・エスキモー」と「ニューギニア高地人」によって昨  
年度の菊地寛賞を与えられている。

このように、近年日本の登山界が、相つゞ海外遠征登  
山によって、世界第一級の登山技術と学問的知識を内外  
に示しつつあることは、同慶にたえないところだが、初  
期には個人的な単なる好奇心から出発した登山が、今日  
では完全にスポーツ化され、技術的にも専門化された革  
新の裏には、日本人の一人倍激しい積極精神と勝負根性  
がひそんでいることを見逃がしてはなるまい。つまり、  
登山がスポーツである限りは、第一番に次から次へ相手  
を打ち負かしてゆくというこのファイトがなければなら  
ない。相手が山であれば、一つの山からより高い、また  
はよりむずかしい山へと、つぎつぎに取り組んでいくこ  
うという態度こそがスポーツとしての登山の本来の姿なの  
だ。だから、日本の第一級の登山家のファイトが、こんご  
とも残された世界の未踏峰に向かって燃やされることは  
当然のことだろう。ただ、世界的な登山技術の進歩によ  
って、今日では未征服の処女峰というものの数が、ヒマ  
ラヤ山脈中でもしだいに数が少なくなりつつあることは  
事実だ。その点登山家からみれば、地球もずいぶん狭  
く、低くなった、といえよう。

だが、同じ山でも、登るシーズン、コース、方法の相  
違によって、いくらでも新しい興味と困難さが見出せ  
るわけだから、登る山がなくなるなどという心配は、ま  
だまだ先の話——ということになろう。ことに年齢  
という点から考えても、陸上競技や野球、水泳などとは  
違って、老年になっても完べきな計画性と努力しだいでは、  
かなりの高山への登はんや探険が可憐なのだから、  
登山こそは人間一生の関心事、いな、最も純粹な勝負事  
といえるかもしれない。そういう意味で、今日までの日  
本登山界に多くの輝かしい諸先輩を送った神戸や関西の  
山岳会から、今後さらに優秀な後輩が続出することを期  
待するものである。

さて、最後に登山家についてのあれこれ話を二つ三つ  
……。神戸出身のわが国登山界の大先輩に近藤茂吉が  
いる。彼は近藤商会（居留地の百番館）の社長で現在東京  
に住んでいるが、八十歳になってからも、かなり高い山  
に登って、若い登山家たちをビックリさせている。現在  
東灘区岡本に住む素封家の中原繁之も高齢だが、近藤と  
同じく元氣な老登山家の一人である。

また、登山家に著名な文化人が多いことも話題の一つ  
といえよう。まず、作家の深田久弥は古くからのベテラ  
ン登山家だが、昭和三十三年五月にもジュガル・ヒマー  
ルを踏査して元氣なところをみせた。同じ作家では大仏  
次郎と小林秀雄らが登山家としても著名だし、女性では  
日本最初の女性アルピニストとさわがれた黒田初子（料  
理研究家）と四家文子（スキーマウマイ）がいる。

関西陣では京大の桑原武夫（ドイツ文学）が以前から  
有名だが、同じ三十三年八月にチヨゴリザ登頂に成功し  
ている。デザイナーの田中千代、芦屋生まれの画家の山  
川勇一郎らの名前も忘れるわけにはゆかない。もう一  
つ、現在の神戸では関学、神大、甲南大などの伝統ある  
学生山岳会のほかに日本山岳会支部（神戸から三十名参  
加）が特に活発であることをつけ加えておきたい。

# 神戸うまいもん巡礼

赤尾 兜子

No. 37



明石「かき繁」の磯の香を残す新鮮な魚料理

## 日本料理の巻

今月は、すこし足を西へのばして明石の味覚を紹介しておこう。

明石といえばタイ、古来その味、姿には定評があり、いまもってその名は全国に広く知られているが、今日そ

の漁獲高がめっきり減りつつあるのが、嘆かれるほかは、美味たることに変わりはない。西宮のえびす祭りに杜前の海で漁獲したものを供えることから「前魚」という名が出た。そんな話が、すでに歴史上のことになってしまったこのごろだから、時代の変化には抗しようもなからう。

ともかく、まだいまのところでは、明石では鮮魚が食べられる。

それをすしにしているのが菊水鮮支店（国電明石駅下車南へ十分、明石銀座東入る桜町二丁目）である。この店、戦前約三千年鮮本店でにぎっていた楠政一さんが、一時鮮魚商をやり、二十四年に独立してすし屋となった。したがって、店歴は十数年、さして古くはないのだが、魚に目がきくだけあって、「前もの」つまり明石の海浜からあがったばかりの、すばらしくいきのよい魚をタネにしたすし、それでスジを通したので、いきおい客に知れ、それが今日の声名をえることになったのである。

現在は、養子の秀雄さんがマスター、四・五人の若いにぎり手もいる。

にぎりはタイを筆頭に、ススキ、ハマチ、エビ、イカなど、どのタネもまったく鮮らしい。あまりのイキのよさに、むしろ歯あたりはかたいぐらいの感じ、それに、飯の酢のあしらい方はうす味の関西風で、それが、タネの魚の味を殺さないようになっている。アナゴも明石産これがまた秀抜の味で「にぎり」と「箱ずし」の二様が



ある。冬場は、タイのビンチヒッターとしてヒラメが登場するが、明石産は折紙ずきだけに、みことな味だし、またヒラメの漁獲高だけはいまもすこしも減っていないので、将来も安心できるというもの。ともかくこの店では、養殖ものはいっさい使っていない。

ついでに、刺身も冴えている。活魚を材にするのだから、冴えているのは当然ともいえるが、伊豆産のワサビ上物のつけ醤油をそろえ、にぎりもいいが、刺身通にはこの賞味もすすめたい。

定員約三十人、地元明石の客より、むしろ阪神間の客方が多いようだ。それは中身と値段を検討して、足代を出して来ても損がないからだろうと思われる。

値段はにぎり二五〇円から、あなご箱ずし一八〇円から、ちらしずし二〇〇円から。

そうした明石のこんどは魚料理を楽しみたい人には、かき繁（国鉄明石駅南、錦江橋東入ル、明石市中崎海岸）がある。

創業いらい五十年、女主

人の経営であったが、この四月から菊水鮓支店の楠政一さんの経営にかわった。といって、以前と大きな模様がえがあるということではない楠さんが、きたえてきた魚をみる鑑識眼を加えて、タイ料理をはじめ、四季のしかも、磯のかおりのする魚たち（カレイ、メバル、キス、オコゼ）の持ち味をフルに生かして調理し、冬場は魚ち



明石の「菊水鮓支店」が味わえる蟹味噌のいけもの

りとかき料理でゆこうということなのである。波の美しい明石海峡をはさんで、南に淡路島がみえる街なのに、この街の海浜部は、なぜか騒々しく垢めけしない。しかしそうしたなかで、この店は、かなりの清閑をもっている。神戸や大阪あたりから出かけていって、それだけの価値があるといえるだろう。

八つの美しい座数があり、三、四十人の宴会でもできるが家族ずれや婦人客の歓談にも適している。会席料理は一五〇〇—二〇〇〇円、かき料理は時価。

明石は、神戸と発展してゆく播州工業地帯の間にはさまっている。昔からの魚どころという名は、残しているが魚だいにあがり、しかもいい鮮魚は生産地としての価格をはるかに上回っている。そこらにこれからの明石の魚料理の問題点があるとされるが、日本に名だたる明石のタイや魚の料理をどう維持してゆくか、よく考えてほしいものである。

紳士入門 ③②

How to be a gentleman

# ドクトル紳士

文・竹田洋太郎  
え・石阪春生

紳士という生物は、別に特別の水域に棲息しているわけではない。普通私たちの近辺に見出される紳士は、たとえば経済界に多いわけだが、政界にもまれには紳士があり、最近では労組指導者のうちにも多くの紳士が発見されたとの報告がある。

ここで、あえて職種別紳士録を作成する意図は筆者にないが、いわば「各論」という立場で紳士の存在する事実をとらえてみたい。

その一つとして挙げるとすれば、医師ではなからうかと思う。社会で尊敬を受ける職業の上位には大学教授などとともに医師がかぞえられるので、医師に紳士が多からうと想像できるが、そこにはなにかの秘密があるのだろうか。もとより医師は患者に対して生殺与奪の権をにぎっている。(生かす権利はあっても殺す権利はないと、医師から主張されるだろうが、誤診による死亡も考えれば、まあ敢てこういう次第である。患者としては、そのくらい医師を信頼しているのである)

また、医師は一人の科学者、技術者であるばかりでなく、社会への関心、人類へ関心の深い人も多い。シュバァイツァ博士のごとく。近ごろは社交的クラブにも数多くの医師を見かけるが、これは一面、医師が真の紳士たるべく研鑽に勉めておられる一つの証拠とも受けとれるのである。

それなら、医師教育において、同時に紳士としての教育が行なわれているかどうか。現代の医学教育は、紳士である教授による無言の人格陶冶もあるが、同時に医局におけるイジワルの伝統が、大いに紳士教育に貢献して

いるのではなからうか。

大学を卒業しても、インターンという期間がある。最近インターン反対の意見も学生から出ているようであるが、そのやり方について改善すべきは当然であつても、紳士である医師の養成には、インターン時代にイジワルされ、シゴキを受けることも必要ではないかと思われる。さらにその後も無給副手、無給助手として、教授の回診につき従う。その列の順序も、軍隊以上の厳密な序列があるということだが、一言にしていえば、これもイジワル・システムの粹となるだろう。かの英国パブリック・スクールにおけるイジワルやシゴキに共通したものである。「無給」であることについては、たしかに一考を要するが、一般に高等専門教育が野放図に行なわれている現今、ここにイジワル教育が温存されていることに敬意を払うべきであらう。

さらに、開業医なり、病院で勤務するという場合には、医師として最高の能力を発揮しなければならないのは、人間の観察力である、これは必ずしも医師として科学的に患者の病気を診断することだけではない。患者、というより眼前にいる一個の人間が、どういう人間であるかどのような社会的地位にあり、どのような生活をし、どのような道楽をしているかも識別しなければ医師とはいえないのである。

しばしば繰返したように、紳士は「人間観察力」においてすぐれていなくてはならない。それがなければ、紳士として相手にイジワルをすることができないからであるが、医師の場合はその職業上、人間観察を数多く行な



わねばならないのであるから、ここにおいても医師が紳士となる条件が備わっていると見るべきである。

ただ、混乱のないように申上げておきたいが、人間観察の場合、その対象は紳士淑女でなければならぬことではないのである。紳士淑女を観察の対象としつつも一向に自ら紳士でない医師もあるし、シニバイツァー博士のようにアフリカの原住民を観察しつつ立派な紳士である人物もいる。人間観察より聖徳太子の観察に重点が移れば目がくもるのは決して医師のみではないが。

しかし、医師諸先生方からは「人間観察より点数計算の方がしんどい」という意見も出されている。まことにご同情にたえないのであるが、点数計算の疲れは、女性観察等によって癒すこととしていただきたい。

そこで、医師としてのイジワルは、いかなる場合に発揮されるべきか。これは、かってカルテにわかりにくいドイツ語を書いたのもその一つである。診察した結果を

医師はどう思っているか、患者にはサッパリわからない。となると医師にすべてをまかせざるより仕方がない。不安が増せば増すほど医師の権威は高まる、といったことを考えてドイツ語でやったものだろうと思う。最近は英語、学名はラテン語というのが多いようだが、これとて患者への一種のイジワルなのである。そしてその最大のもはガンの患者にガンであることを打ち明けず死なせること。打ち明けた方が患者も観念するだろうがそうしないところがイジワルな仁術の仁術たる所以なのである。

紳士でない例一つ。政界最高の実力者が死んだとき、医師最高の実力者が「先生はおくれになりました」と告げた。この場合、やはり紳士である医師は「おれのいうことを聞かないので死んじゃった」くらいいいておくべきだろう。

